

教育子午線

Kyoiku-Shigosen

June
2006

- キャンパス通信
- 地域貢献活動
- うれしの交差点



- 日々是研究
今井裕之
- Watching ゼミ&講座
福本謹一ゼミ

● 教育最前線
**教職大学院に先行して
実践重視の新専攻を設置予定**

昨年4月、兵庫教育大学は大学院重点化を実施し、すべての教員の所属を大学院に変更しました。兵庫教育大学にとって、これは創立の原点に立ち戻り、学校教育のフロントランナーとしての役割を果たしていくことを宣言したものです。

現在、兵庫教育大学では総合的な視野に立ち、大学の改革を進めています。とりわけ、力を入れているのが、教員養成に特化した専門職大学院「教職大学院」の早期開設です。その一環として、今年4月から研究組織と教育組織を分離した新しい教員組織をスタートさせました。

新しい教員組織では、教員は基礎教育学系、臨床・健康教育学系、社会・言語教育学系、自然・生活教育学系、体育・芸術教育学系の5つの研究組織のいずれかに属し、学校教育の基盤となる研究を進めるとともに、大学院修士課程、博士課程、学部における教育、学校教育研究センターや実技教育研究指導センターなどの業務に携わります。新組織は柔軟性と機能性・機

動性を備え、「教職大学院」の創設を含めたこれからの大学改革を支えていきます。

現代の教育ニーズはますます多様になり、高い資質能力を持つ教員の養成が求められています。新しい教員組織は、

教員がその能力をフルに発揮して社会のニーズと期待に積極的に応えるためのものです。

大学改革に向けて 新しい教員組織がスタート

◎組織・機構



理事・副学長 勝野真吾

兵庫教育大学の動き

2006 2月→5月

2月



附属小学校研究発表会

2日~3日

◎附属小学校研究発表会

12日

◎連合学校教育学研究所入学者選抜試験

13日

◎学部推薦入学者選抜試験合格者発表

15日

◎連合学校教育学研究所入学者選抜試験合格者発表

◎北播磨地域学習フォーラム

18日

◎附属小学校「うれしのフェスティバル」

25日~26日

◎学部前期日程入学者選抜試験

27日

◎学部私費外国人留学生特別選抜試験

3月

6日

◎学部前期日程入学者選抜試験等合格者発表

10日

◎附属中学校卒業証書授与式

11日

◎大学院第2次募集入学者選抜試験

12日

◎学部後期日程入学者選抜試験

16日

◎附属幼稚園修了証書授与式

20日

◎附属小学校卒業証書授与式

◎学部後期日程入学者選抜試験合格者発表

◎大学院第2次募集入学者選抜試験合格者発表

23日

◎大学院学校教育研究科学学位記授与式

◎学部学位記授与式

◎大学院学校教育研究科(夜間クラス)学位記授与式

28日

◎大学院連合学校教育研究科学学位記授与式



学部入学式

4月

6日

◎大学院学校教育研究科入学式

◎学部入学式

11日

◎附属小学校、中学校入学式

12日

◎附属幼稚園入園式

13日

◎大学院連合学校教育学研究所入学式

附属幼稚園入園式



5月

10日~6月28日

◎公開講座「和 문화体験講座—居合道の理念と技法—」(全8回)

13日~6月10日

◎公開講座「ドイツの名曲を歌いませんか?」(全5回)

13日~6月24日

◎公開講座「楽しくてうまくなるテニス教室(1期)」(全7回)

13日~7月1日

◎公開講座「陶芸教室『カップ・カップ』」(全6回)

◎公開講座「『発達』から見た現代っ子のすがた」(全8回)

はじめまして



こめだ ゆたか
米田 豊
(社会・言語教育学系教授)

公立小・中学校の教員や教育委員会の指導主事を経験して、今年4月1日付で社会・言語教育学系に着任しました。本学修士課程(社会系コース)の10期生です。

専門は社会科教育学で、戦前から現在までの社会認識教科目の授業構成理論を歴史的に位置付ける研究を行っています。その研究成果を基にして、指定研究学校などの授業構成理論を分析し、実践課題の解決に資する授業モデルを開発しようと考えています。将来は、現在計画中の高度教育実践専攻の授業実践リーダーコースで、授業設計の理論や実践分野の授業を担当する予定です。

16 15 14 12 11 10 09 08 04

教育子午線

Kyoiku-Shigosen

June, 2006

教育最前線

就職大学院に先行して

実践重視の新専攻を設置予定

日々是研究

「小学校英語活動実施状況調査」に見る

英語教育事情

今井裕之(社会言語教育学系助教)

教育現場からの質問

教員の著書紹介

Watching TV&講座

福本謹一ゼミ(体育・芸術教育学系)

卒業生からの手紙

キャンパス通信

地域貢献活動

高校生が企画するワークショップに協力し

人々の交流を促進

上浦千津子

(大学院連合学校教育学研究所芸術系教育連合講座3年)

うれしの交差点

兵庫教育大学からのお知らせ

兵庫教育大学の大学院修士課程(学校教育研究科)は昭和55年の開設以来、主に現職教員を受け入れ、高い資質・能力を持った教員の養成に取り組んできました。修了生は延べ6000人を超え、そのうち約4700人が全国の教育現場で活躍しています。昨秋、中央教育審議会から教職大学院の設置に関する提言を受け、兵庫教育大学ではこれまでの修士課程での実績を生かして、平成19年4月、学校教育研究科に「学校指導職専攻」と「高度教育実践専攻」の新設を計画しています。

教職大学院に先行して 実践重視の新専攻を設置予定

現代の教育現場では、教育環境を取り巻く社会の変化や諸課題に対応できる高度な専門性と豊かな人間性、社会性を備えた力量ある教員が求められています。大学院教育においても、現職教員の再教育を含め、特定分野に関する深い知識と能力のある教員、高度な実践力や応用力を備えた教員を幅

広く養成していくことが重要となつてきています。

現在、中央教育審議会(中教審)では、平成15年に制定された「専門職大学院制度」を活用し、「教職大学院」の創設を審議しています。兵庫教育大学では、中教審から教職大学院の設置に関する提言を受け、19年4月、学校教育研究科に「学

校指導職専攻」と「高度教育実践専攻」の新設を計画しています。

2つの新専攻がめざすものは、学校現場での具体的な教育実践により深く根差した養成と研修です。キャンパスでの学習の在り方、そして連携協力校でのインターンシップ的な実習の在り方もこれまで以上に実践的なものを考えています。

専門職大学院制度とは

平成15年度に、これまでの大学院制度とは異なる高度専門職業人の養成に特化した「専門職大学院」制度が創設され、法曹、ビジネス、会計、公共政策などの分野で専門職大学院の整備が行われています。教員養成の分野においても、この制度を活用して、教員養成のための専門職大学院として「教職大学院」制度を創設することが、現在、中央教育審議会で検討されています。

教職大学院がもたらす 本格的な「教師教育時代」

渡邊規矩郎

日本教育新聞社関西支社長

大多数の真面目な先生たちがこの国の教育を支えているにもかかわらず、教師批判や教員の資質向上を求める声は高まるばかり。戦後、教員養成が大学において「教育者」でなく「研究者」によって行われるようになり、また、家庭において、親子どもの前で先生の悪口を言うようになって以来続く教師批判といえるでしょう。

視野の狭い教師の卵が排出されるとの批判や、教師が教師でなくなつたとの指摘も絶えず聞かれます。もとより、教師が教師で在り続ける基礎教育を養成中に受けていなければ、成長し続ける教師は得がたいし、教師に成長がなければ、子どもの成長などおぼつかないでしょう。このように、教員養成の問題は、入り口のところで堂々巡り。中身に入れないジレンマがつきまとつてきました。これをどこで、どう断ち切るかが課題でした。



わたなべ きくろう 昭和50年、日本教育新聞社入社。平成11年に同社関西支社長に就任。教育ジャーナリストとして教育全般に深い見識を持ち、民間における教員研修の企画・運営の経験も豊富。兵庫教育大学の経営協議会委員であり、来春からは学校指導職専攻と高度教育実践専攻の兼任教授に就任予定。

昭和46年の中教審答申「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」で、教員の養成確保と地位向上の基本構想が打ち出され、試験制度の導入などが提言されました。その中の一つの具体策として、兵庫、上越、鳴門に新構想教育大学が創設されたことは、当時としては画期的なことでした。

兵庫教育大学が開学した53年10月1日、社町(当時)で地元主催の創設記念祝賀式典が行われ、実行委員会会長の石古勲社町長は「この大学の創設こそ新しい教育の幕開け。真の日本人をつくる熱い使命感にあふれた教育者が生まれることを祈る」とあいさつ。砂田重民文相は「優秀な教員を確保し、その資質能力の向上を図るといふ極めて重要な課題を担い、それぞれの機能を十分果たしてくれることを祈る」と新教育大学への期待を込めるとともに、「地域社会、

他大学、国際社会への三つの窓を思い切つて開いてほしい」と開かれた大学を強く希求しました。

新構想大学に注目していた私は、当日も東京から社に入り、その後も最初の入学試験、入学式、卒業式、さらに歴代の学長への取材を重ねてきました。そして、「教師教育の時代」という長期連載を組み、教員の資質向上の新たな胎動に期待をかけたものでした。

兵庫教育大学開学と同じ年の6月、中教審から「教員の資質能力の向上について」の答申が出ました。答申は「教員に対する国民の要請と教職の専門性」を前提に、教員に対する要望として、①広い教養②豊かな人間性③深い教育的愛情④教育者としての使命感⑤充実した指導力⑥児童・生徒との心の触れ合いを挙げています。これは今も変わらぬ国民の教員への願望でありましょう。

それから四半世紀余。期待された新構想教育大学の波及効果は上がらず、新構想大学が既設大学化していったきらいもあります。そうした中で平成17年6月に中教審が打ち出した「教職大学院」は、これからの教員養成の本流になるとみられるだけに、教員養成系大学のみならず、教員養成学部を持つ一般大学も強い関心を寄せ、大学の生き残りの設置を構想している様子が見えられます。

新構想教育大学の誕生に「教師教育の時代」を予想しましたが、時代はまだ夜明け前だったのかもしれない。しかし、今回の教職大学院は本格的な「教師教育の時代」の幕開けを予感させます。もし、そうならないとすれば、「教育は人なり」や「教育は国家百年の大計」はお題目どころか死語となつてしまふでしょう。

「教職大学院」制度の創設の基本的な考え方

～中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について(中間報告)」より抜粋(平成17年12月)

近年の社会の大きな変動の中、様々な専門的職種や領域において、大学院段階で養成されるより高度な専門的職業能力を備えた人材が求められている。

教員養成の分野についても、研究者養成と高度専門職業人養成の機能が不明だった大学院の諸機能を整理し、専門職大学院制度を活用した教員養成教育の改善・充実を図るため、教員養成に特化した専門職大学院としての枠組み、すなわち「教職大学院」制度を創設することが必要である。

このような改善・充実を図り、力量ある教員の養成のためのモデルを制度的に提示することにより、学部段階をはじめとする教員養成に対してより効果的な教員養成のための取組を促すことが期待される。

教職大学院は、当面、①学部段階での資質能力を修得した者の中から、さらにより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成 ②現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクーラーリーダーの養成の2つの目的・機能とする。



田中陽三さん
兵庫県立加古川東高校長

学校教育のカギを握るのは 中堅教員の実践力の向上

私の勤務する高校においても、教育改革の波は否応もなく押し寄せ、と言うよりも高校自体が変化への対応が求められる時代にあつて、教員個々にもより高度な専門性が求められています。また、経験とともに成長するという悠長な時間はなく、学校は変化への対応に呻吟している、とも言えます。

今や学校では、採用された時点ですでに一定の力量を備えた教員が必要とされ、また、ある程度経験を積んだ後に、その実践と体験を基に再度スキルアップを図り、より高度で的確なマネジメントを備えた教員を育成することも急務となっています。

私自身は、この両者に共通して求められるのは、理論や理念に裏打ちされた実践力だと考えます。とりわけ、具体的なビジョンに支えられたマネージメント能力とリーダーシップを備えた中堅教員の実践力を必要でしょう。

折しも、兵庫教育大学が日本教育界のリーダーたるべく新たな理念のもと、教職大学院設置構想は、真に心強く、私も学校と大学の連携の深まりの中で、教職大学院の修了生がそれぞれの学校で力を発揮することを期待しています。

たなか・ようぞう 昭和46年から兵庫県立高校教諭。県教委高校教育課指導主事、国際理解教育係長、県立明石西高校長、阪神南教育事務所長などを経て、平成18年に県立加古川東高校長に就任。

寄稿

教育最前線

「設置構想」 すること



橋本文男さん
姫路市立城北小学校長

学校現場が求めるのは 「確かな専門性」を身に付けた教員

中教審答申「新しい時代の義務教育を創造する」に基づく義務教育改革が進行しつつあります。教育が「国の大本、国家百年の計」であることを思うとき、義務教育の理想を求める改革の必要性は十分理解できます。学校経営に携わる者の一人として、地方分権と規制緩和の考え方に沿って、主体的にこの改革に参画したいと思えます。

学校現場は以前からの不登校、いじめ、学級崩壊、生徒指導上の諸問題に、近年は学力低下問題、軽度発達障害児への対応、不審者から児童の生命を守る課題も加わり、閉塞的な状況に陥っています。深刻な現実が学校と教師に重くのしかかっているといえます。

義務教育にかかわる改革の理想と学校の現実とのギャップは大きく、このギャップを埋め、改革の理想を実現することが義務教育改革の本質的な課題です。改革の主体は、学校と教師一人ですが、改革推進が国家的な課題であることも忘れてはなりません。地方分権、規制緩和の名の下に、学校と教師への安易な責任転嫁は許されません。

教職大学院の設置構想は、学校現場からみて真に改革の実効が期待できる国家的な施策であると考えます。薄っぺらな専門性ではなく、教育に対する確固たる信念と情熱を基盤に「確かな専門性」を身に付けた教員の養成を期待したいです。改革に立ちはだかる壁は厚いが、教職大学院で学んだ院生が真の「教師力」を身に付け、これからの義務教育改革の担い手として活躍されることと思えます。

はしもと・ふみお 姫路市出身。昭和45年、兵庫県公立学校教員に採用される。兵庫県教育委員会指導主事、兵庫教育大学附属小学校副校長、姫路市立教育研究所長などを経て、平成13年に姫路市立城北小学校長に就任。



石川芳己さん
下松市立下松小学校長
下松市教育研究所長

高度な研修が教員の資質を高め 教育の質の向上につながる

「教育は人なり。人が人を人にするのが教育である」

教育の質を高めるには教師の資質を高めることが必要であり、教師の資質を高めるためには研修が不可欠です。研修とは、研究と修養を指し、深い学問研究と幅広い人間修養の総合的な営みです。教育実践を通して教師の資質は向上します。いわば「on the job training」事上磨練といえます。しかし、自己の歩みを整理し、価値付けることも教職生活を充実していく上で大切なことです。教職大学院設置構想には大いに期待しています。

大学院では、教育実践を振り返り、さらに深奥を極めることができます。子どもの教育に資することが教職大学

院の最大の眼目であるべきです。また、教師の資質向上のための研修の機会が教職大学院であるべきです。大学院には教職経験豊かな教授陣が望ましいと思います。真の教養、教育観、教育哲学などを学べ、教育技術の専門研究に加えて、人間教育の総合的な研究実践の大学院でありたいものです。そして、教師の教育研究と教育実践の拠点となつてもらいたいのです。

森信三や東井義雄ら、兵庫県にゆかりの深い先達の教育哲学や教育実践を啓蒙していただき、兵庫教育大学ならではの教職大学院として、人間教育のメッカ、教育実践のメッカとなることを大いに期待しています。

いしかわ・よしき 山口県出身。昭和60年3月、大学院教科・領域教育専攻社会系コース修了。49年から山口県教員として、新南陽市教委指導主事、山口県教育庁教職員課の教育調整監、大島町立沖浦中学校長、光市立浅江小学校長などを歴任。平成18年から下松市立下松小学校長に就任。

特別

「教職大学院 私が期待

教育最前線

新構想を前に希望すること



中井健博さん
大学院学校教育研究科
教科・領域教育専攻社会系コース2年

現職教員の院生として、大学改革に最も望むことは、講義担当者の教授法向上のための具体的方策です。兵庫教育大学がめざすべき改革の最大の眼目は、何よりも「講義の改善」でなければなりません。本学は教育系大学であり、講義担当者自身の講義の修正力や学生に対するきめ細かな指導には、他大学より一歩先を進んでいると胸を張れるようであってほしいと痛感します。しかし、残念なことに、私の周りの現職教員の間では、「現状の講義をそのままにして、講義の選択の仕方を変えてもあまり意味が無いのでは…」と話しています。

のであれば、大学側や教授の作為によってさまざまな場において、より両者の能力別指導を図り、一方でもっと両者による有効なワーキンググループを作るなどのメリハリが必要だと思えます。両者の交流を、インフォーマルな人間関係に期待するだけでは、あまりにも無責任です。さらに喫緊の課題として、能力的に幅の広いストレート院生の底上げが不可欠であり、このままこの方策を怠れば、これが将来的に本学のアキレス腱になるかもしれません。教職大学院の設置構想は、より教育系大学としての専門性を高めるための挑戦と聞いています。院生と教授が、研究活動に対してこれまで以上に意欲的に取り組む好機となるのであれば、大いに歓迎すべきことです。

なかい・たけひろ 高校の地理・歴史・公民科教諭。平成8年に鹿児島県で新卒採用され、12年に三重県の採用試験に合格。県立亀山高校の教諭を経て、17年に大学院入学。へき地と少人数教育にも関心があり、今夏は鹿児島県トカラ列島の各校でストレート院生とともに教育実習を行う。

いま いひろ ゆき
今井裕之

社会・言語教育学系助教授



「小学校英語活動実施状況調査」に見る 英語教育事情

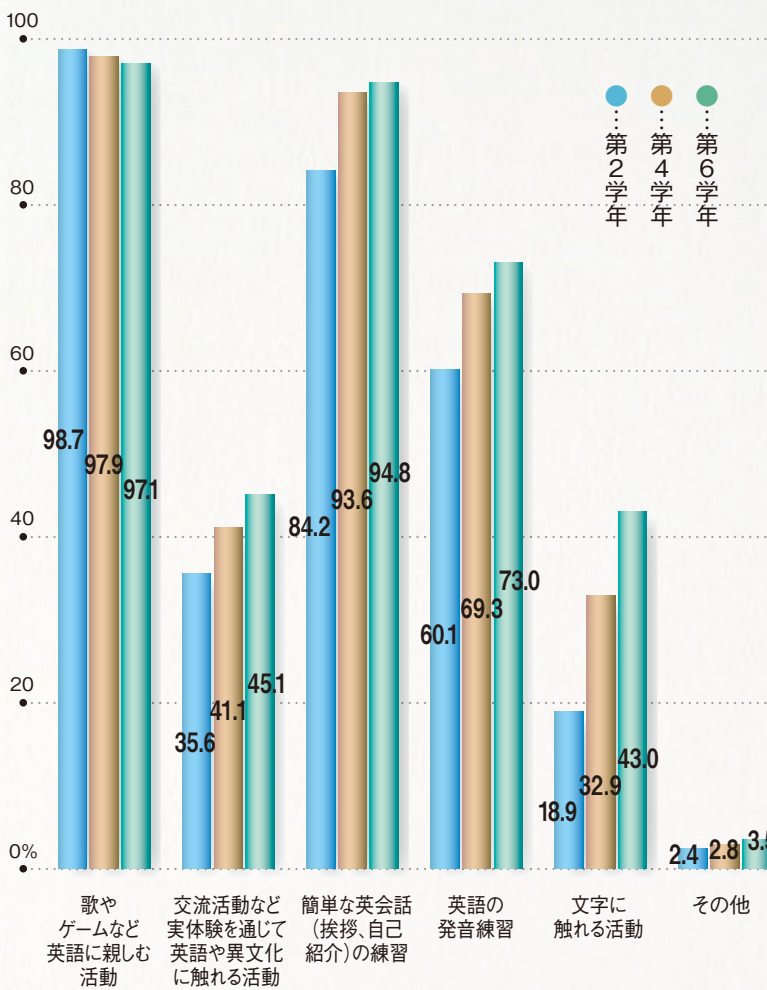
文部科学省が「英語が使える日本人」育成のためのアクションプランを発表した平成15年以降、毎年、全国の小学校2万2000校以上を対象に、英語活動実施状況についての調査が行われています。英語活動を実施する小学校は年々

増えており、17年には活動を一度以上実施した学校は93・6%に達しました。文部科学省もこの調査や研究開発学校の報告を受け、5・6年生を対象に、英語教育を週1回程度で必修化する方向へ向かっていま

す。中央教育審議会の教育課程部会外国語専門部会が示した英語教育の目的は「国際理解」「文化理解やコミュニケーション力の育成」など、他教科との連携を強調した小学校らしい英語教育の必要性を訴えています。こうして小学校での英語教育は確実に「始まるう」としています。

かし、これは年間平均13時間程度の実規模での数字です。年間35時間に換算すれば、現在の3倍ほどの授業時間となり、それだけの英語話者の労働力が確保できるとは思えません。必修化の対象を5・6年生に絞った一因は指導者確保にあるのかもしれませんが。ただ、現在すでに多くの学校が1年生あるいは3年生から実施している実態を考えると、今後、担任教員にかかる責任がますます大きくなることは明らかです。

英語活動の主な内容(複数回答)



93・6%の実施率ならば、すでに「始まっている」と言うべきかもしれませんが、他のデータから見る実態は異なります。6年生で週1回(年間35回)以上の英語活動を実施した学校は17・6%です。「行事」と「授業」の分水路が週1回の頻度だとすると、授業として英語活動を実施したといえる学校は、行事型の実施を含む93・6%という数字とは大きく隔たっていることが分かります。

英語活動の主な担当者は担任教員で、その90%以上で指導に当たっています。英語母語話者の参加時間も60〜70%で、かなりの割合だといえるかもしれません。し

活動内容は「歌やゲーム活動」「簡単な英会話」「発音練習」が盛んであり、予想通りの感があります【グラフ】。1人当たりの練習量を確保しやすい少人数の幼児英語教室ならばいざ知らず、小学校の教室環境で週1回程度、高学年を対象とした実践では、これらの活動をどうコーディネートすれば小学校教育として意義あるものができるかが課題になるでしょう。シラバスや指導方法の開発にかかわる苦労は当面続きそうです。

Q&A



アドバイザー

にし おかのぶ き
西岡伸紀

臨床・健康教育学系教授

Q 近年、幼児や児童を狙った犯罪が多発しています。さらなる安全教育・防犯教育をめざし、学校ではどんな取り組みが必要でしょうか。

A まず、教育の内容や方法の充実が挙げられます。例えば、子どもたちの危険予測能力を高めるものとして、最近、小宮信夫氏（立正大学）が提唱する地域安全マップづくりが注目されています。これは、過去の犯罪発生場所のプロットや不審者捜しをするのではなく、「人が侵入しやすい場所」や「見えにくい場所」を明らかにし、整理、発表するものです。

マップづくりは、地域への関心を育てるものとしても注目されています。また、危険予測や対処行動だけでなく、人々の安全確保のために、防犯ボランティア活動、危険箇所等の改善、緊急避難場所の整備など、さまざまな活動が行われていることを学ばせる機会にもなります。

次に、防犯教育を組織的に展開しましょう。例えば、地域の防犯団体や警察、保護者などが防犯教育にかかわったり、保護の授業参観、家庭への啓発などを併せて行ったりすることが考えられます。これにより、防犯教育の有効性、家庭や地域の防犯意識の向上が期待できます。

最後に、学校（保健）安全年間計画の中に防犯教育を位置付け、計画的に実施してください。計画、内容、継続性などの評価教育の組織的展開が可能になります。

今年度、文部科学省が全校に配布した『大切なのちとあんぜん』（小学校低学年児童用）、『学校における防犯教室等実践事例集』（教師用）も活用してください。



『現代政治学の課題』

日本法政学会五十周年記念

（成文堂・平成18年刊）

著者：藤井德行（社会・言語教育学系教授）ほか

アメリカ大統領の選挙はどのような仕組みになっているか、ドイツの参議院の特徴はどうか。国連改革などの外国や国際問題に始まり、政治と笑いの関係、国会で少数派が多数派に対抗してする議事妨害が各国で行われていることなど、興味深い政治について詳しく研究した書物である。

また、日本政治史に関する論文も7本収録されており、そのうち4本を本学関係者が書いている（藤井は「明治元年・東北朝廷処分の一考察」を担当）。中世末・近世初期、明治元年、満州事変前後、戦後政治史と、時代順に見ることができる。日本法政学会が創立されて50年経ったことを記念する意義深い論文集である。



詩画集『私的な流行歌』

はやりうた

（新風舎・平成18年刊）

著者：北庭嘉人（本名：辻田嘉邦<名誉教授>）

誰に見せることなく、手帳に書きつづっていた詩と描きためたスケッチ画をまとめて出版コンクールに応募。優秀賞（出版推薦作）に選ばれたことで、この詩画集が生まれた。

「予定表には詩がない 過ぎ去って詩が生まれる」。そんな創作の不思議さ（第1章）や「擬き、紛いとは似せること わたしにとっては童心に還る」楽しさ（第2章）、それに「自由を奪う囿いの中からはみ出る時、絵や詩に出逢う」面白さ（第3章）を詩画のテーマに、構成している。少し気恥ずかしいが、ご笑覧くだされば幸いです。

Books

教員の著書紹介



※教員の著書は附属図書館で閲覧できます。詳しくは学術情報課 ☎0795-44-2062へお問い合わせください。

◆執筆者 安達 漢
 大学院学校教育研究科
 教科・領域教育学専攻
 芸術系コース(美術)2年

「芸持ち込みゼミ」。今年の福本謹一ゼミの状況を一言でお伝えしようと考えた時、とっさに

個性派ぞろいの「一芸持ち込みゼミ」

この言葉が思い付きました。現在在籍しているゼミ生のうち、修士論文にいそむ5人が皆、何かしら秀でたものを持っているのです。

現職の小学校教員である藤原良二さんは、風雅と粘土を愛する茶人(表千家)。博士課程の宮野周さんはメディア美術教育について研究されており、機械モノに関しては右に出る者はいま

せん。小免プログラム3年生の廣田志帆さんは野外キャンプやアートワークショップのリーダーとして活躍。子ども一人一人の才を引き出そうとする熱意の持ち主です。丸山茂樹さんはアコースティックミュージシャンで今年5月にはソニーからCDデビューを果たしました(アップル社iTunesでもダウンロード可能)。かく言う私、安達はキャリ

ア12年の南米民族管楽器「サンポニーヤ」奏者であり、能面彫刻研究員という肩書きを持ちながら、美術教育の未来形を模索しています。もちろん好きな言葉は「温故知新」。ゼミには、修士課程1年生の小西貢さん、佐藤雅さん、中田高俊さん、学部4年生の曾根千佳さん、3年生の須戸佳奈さん、廣畑綾さんも在籍し、総勢11人が美術科教育に関する研

Watching ゼミ & 講座



ふくもと きんいち
福本謹一ゼミ
 体育・芸術教育学系

究に取り組んでいます。個性の強いメンバーを優しく見守り、それぞれの特性を考慮してご指導、ご助言をくださるのが、福本謹一教授。ゼミ室はいつも笑いと和やかな雰囲気包まれ、私自身にとって、常に新



左から福本教授、藤原さん、丸山さん、安達、廣田さん

しい視点や価値観の発見の連続です。福本教授の専門は美術教育学、図工科・美術科教育。数々の学会やフォーラムを企画・運営されて

います。研究内容の参考になるような勉強会をゼミ生に紹介して下さったり、さまざまな立場の方々とお話できる機会を提供して下さったりします。

教授は今年3月、ユネスコ芸術教育会議世界大会で招待講演をされたり、2008年に大阪で行われる「INSEA(国際美術教育学会)世界大会」のアジア地区代表をされていたりと、世界中を飛び回り、ゼミにグローバルな情報を流してくださいます。今、日本では軽視されがちな芸術教育の大切さ、必要性をあらためて認識することができ、芸術教育に携わる者の一人として私も肩に力が入ります。福本ゼミは、さまざまな立場のさまざまな経験を積んでこられた芸術の力を信じる人々が集まり、語り合い、意識を共有し合う場。常に新鮮な目で、外面に翻弄されず本質を見極めようとする教授に支えられ、ゼミ生は今日も研究に励んでいます。



もり もと ひろ のぶ
森本宏伸さん

津山教育事務所指導主事

岡山県出身。岡山県の中学校教諭を経て、平成13年に大学院学校教育研究科教科・領域教育学専攻生活・健康系コース(技術)に入学。15年に現場復帰し、翌年から津山教育事務所学校教育課の指導主事に就任。



すず き かず なり
鈴木一成さん

台中日本人学校教諭

宮崎県出身。平成2年、学校教育学部教科・領域教育専修社会系コースに入学。在学中は準硬式野球部に所属。卒業後、宮崎県の中学校社会科教員を経て、17年4月から台湾の台中日本人学校に勤務。



新たな学校づくりをめざし「放課後研修講座」で登壇

↓ 子どもたちのために適切な指導助言を

岡山県の津山教育事務所の指導主事に就いて3年目を迎えました。当初は、慣れない仕事とその職責の重さに戸惑うことが多かったことをよく覚えています。その際、大学院の2年間で学んだ教育理念やさまざまな教育情報、ネットワークがとても役立ちました。

津山教育事務所では「困り感に寄り添う津山教育事務所」を合言葉に、教育現場に足を運び、管内の教育委員会、幼稚園、小学校、中学校を支援しています。

指導主事として、研修会の企画運営、各校の校内研修や各種研修会での指導助言などを行っています。中学校の全教科を担当しているため、校内研修では自分の専門外の授業でも指導助言をする必要があります。事前に学校からいただいた指導案を基に、指導案検討と助言の内容を考えるのが、時間もかかり大変な仕事です。学校訪問が続くと、指導案の山ができてしまいます。しかし、研究協議で活発な意見を交わし、助言を熱心に聞いてくださる先生方の姿を見ていると、その先にいる多くの子どもたちのためにも頑張らなくてはという気持ちかわいてきます。

「できるところから笑顔で実行!」をモットーに、これからも頑張っていきたいと思います。

↓ 台湾に来て初めて小学生を担当

海外に居住する日本人の子どもたちが、どのような環境で、どのように学んでいるのか、そして、今の自分に教師として何ができるのか…などの動機から、台湾・台北市にある「台中日本人学校」に勤務して2年目になります。

教職に就いてからの11年間は、中学校社会科の教員として、学習指導や生徒指導、部活動の指導などに当たってきました。台中日本人学校に赴任した昨年度は、小学部2年生の学級担任として大変有意義な時間を過ごすことができました。今年度は同4年生を担当し日々、子どもたちとともに奮闘しています。

小学生を担当する機会を得て、あらためて大切なことに気付かされることが多く、最近の「遊び」(集団によるもの)の中にも学ばされることがよくあります。人とかかわり方やルール、創意工夫などです。少し大げさかもしれませんが、遊びを通して、人として身に付けておくべき大切なことを体験的に学び取らせたいと願う今日このごろです。

これからも、灼熱の太陽の下、子どもたちとドッジボールや野球、サッカーなどを楽しみ、学んでいきたいと思えます。

運動会では児童たちとともに「子どもエイサー」を踊りました





夜間クラス出身の大賀さんは五輪後、大学院神戸サテライトで梶田毅一学長らと会談しました。左から三野耕教授、宮崎秀紀理事、大賀さん、梶田学長、川本幸彦副学長

荒川静香選手の「イナバウアー」が記憶に新しい今年2月のトリノオリンピック。しかし、別の意味で世間の注目を浴びたのが、ボブスレー日本代表チーム。出場資格（出場枠）をめぐる解釈の相違から、一旦、男女4人の日本人選手の出場が取り消されるといふハプニングが起きました。



ボブスレー日本代表チーム監督
ボブスレー強化委員長
県立松陽高校教諭

おおが やすひろ
大賀康弘さん

平成18年3月、大学院修士課程生活・健康系コース(保健体育)を修了。研究課題は「ボブスレー競技選手のための長期育成プログラムの開発」とくに形態および体力からの検討」。昭和61年、大学入学後にボブスレーを始め、現役時代は日本代表の一員として活躍。平成11年から日本代表の監督を務めている(11年~14年は女子のみ)。

でももう機会にもなりました。日本では深夜だったにもかかわらず、テレビ中継されましたから」と振り返るのは、日本チームの監督であり、当時は大学院修士課程2年生だった大賀康弘さん。

長野県に全国唯一の専用コースがあるだけで、日本人にはあまりなじみのないボブスレーですが、ヨーロッパやカナダでは競技人口の多い人気種目です。ヨーロッパでは大手自動車メーカーがソリの開発、製造を手掛けていますが、日本にはそのような企業がありません。欧米と比べてサポート態勢に大きな差があるといえます。

「ソリは1台400万円ほど。オリンピックに出るからといって、日本チームに新調する余裕はありません。男女とも中古のソリで挑みました。ソ

研究の成果を選手の育成に生かし 世界との差を縮めていきたい



男女4選手とともに挑んだトリノの舞台。姫路市出身の長岡千里選手(左端)は陸上で鍛えた才能を大賀さんに見出され、代表選手にまで上り詰めました

りの性能の低さと、下位に終わったことは無関係ではないと思います」と日本チームを取り巻く厳しい現状がみえます。

「トリノでは休む暇もない状態でした。スタッフは私一人だけのソリの輸送準備、選手の体調、食事、スケジュールの管理、ミーティングなどをこなしました。体調管理や食事のメニューで困った時は、三野教授(体育・芸術教育学系)にメールでお聞きしました」

今年三月、大賀さんは生活・健康系コース(保健体育)を修了。

在学中は、長期的な視野に立ったボブスレー選手育成方法についての研究に没頭しま

した。選手時代を通して初めてのオリンピックは不本意な結果に終わりましたが、指導者としては第一歩を踏み出したばかり。

「大学院での研究も生かして、4年後、8年後をにらんだ選手の発掘、育成、強化に取り組みしていきたいですね」

WHAT'S ボブスレー

流線形をしたソリに乗って、延長1,435メートルの氷のコースを疾走する競技。そのスピードの速さから、「氷上のF1レース」とも呼ばれています。2人乗りと4人乗りがあり、2人乗りはパイロットとブレイカー、4人乗りにはさらに2人のプッシャー(ソリを押す人)が加わります。

トリノオリンピックの結果

<女子2人乗り>
松野真奈美選手、長岡千里選手(姫路市出身)が出場。1日目はリタイア組を除き最下位の15位。2日目も順位はそのまま。世界との差は歴然でした。

<男子2人乗り>
清川卓選手と小林竜一選手が出場。最終順位は27位と、上位20チームまでに入れず3回戦で敗退。



男子サッカー部



2部昇格に貢献した4年生部員と女子マネージャー(前列右端が河島さん)



上位進出をめざし練習にも熱が入ります

念願の2部昇格を達成
創部25周年を迎えさらに上位へ

部長

学校教育学部教科・領域教育専修自然系コース4年
かわしま とおる
河島 亨さん

奮

男子サッカー部は部員17人、マネージャー6人。年間を通してリーグ戦やさまざまな大会に参加しています。特に大きな試合が、春と秋の「関西学生サッカーリーグ」と夏休みの「近畿国立大学体育大会」です。兵庫教育大学のサッカー場で試合が行われることもあるので、その時はぜひ応援に来てください。

他大学のサッカー部とは違い、私たちに監督やコーチがいません。練習では自分たちで教え合いながら、チーム力を高めていくよう日々努力しています。去

年の秋季リーグでは創部初となる3部優勝。順位決定戦では多くの応援を受けて勝利し、念願の2部昇格を果たしました。これも日ごろの練習から協力し合い、チーム一丸となれたからこそこの結果だと思っています。これからもさらにいいチームをめざして頑張っていきたいと思っています。

サッカー部は今年で創部25周年を迎え、3月には記念式典を開きました。OBとの交流を通して、サッカー部に寄せられる期待の大きさをあらためて感じました。OBをはじめ、大学や友人の支えがあり、ここまでやってこられたと思います。そのことに感謝し、プレーで応えられるように頑張ります。

戦

記

キャンパ
Campus

Congratulations

おめでとう



ファイナダー越しに見た
子どもたちのかわいらしい表情

青空の下、「シアワセ～」と日本語を交えた『幸せなら手をたたこう』の歌声が響きます。

JICA(国際協力機構)主催の「国際協力フォトコンテスト」に入賞した作品は、昨年8月、フィリピン・ルソン島で現地の小学生約200人や先生たちに向けて、日本語と音楽の教室を開いた時の一枚。子どもたちのかわいい表情に、吸い込まれそうになりました。

私は高校1年の時に初めてフィリピンでのボランティア活動に参加し、昨夏が4度目の訪問でした。現地を歩けば、「日本語を教えてー」と



受賞作品「音楽初体験～みんなでenjoy～」

大勢の子どもが集まってきて、青空教室がスタートします。私も彼らからタガログ語や風習など、さまざまなことを教わります。一緒にごみ拾いをしたり、サンタクロースに扮して日本で集めたぬいぐるみを贈ったりもしました。

今年の3月には大学の友人たちも活動に参加してくれました。仲間の輪が少しずつ広がっていることをうれしく思っています。

JICA(国際協力機構)主催
「第26回国際協力フォトコンテスト」
国際協力賞(アジア)受賞
学校教育学部
幼年教育系コース3年

にしどのえり
西殿英里さん

【スポーツ大会、コンクールの優秀成績者】～平成17年秋～18年春開催分

※学年等は受賞当時のものです

第12回
全日本クラブソフトテニス選手権大会
(財日本ソフトテニス連盟主催)
▶男子の部 優勝
姫路アニマルズA 須谷哲章さん(大学院
修士課程社会学系コース1年)所属

第46回
自然科学観察コンクール
(毎日新聞社ほか主催)
▶小学生の部 佳作
橘 智子さん(附属小学校5年)
▶指導奨励賞
寺倉邦明さん(附属小学校教諭)

平成17年度
ぼくのわたしのふるさと絵画コンクール
(全附連主催)
▶カンガルー賞
竹内 渉くん(附属小学校1年)

第43回
なにわ芸術祭「新進音楽家競演会」
(産経新聞社ほか主催)
▶ピアノ・管弦打楽器の部 新人奨励賞
井上朋子さん
(大学院修士課程芸術系コース(音楽)2年)



かみ うら ちづ こ
上浦千津子

大学院連合学校教育学研究所
芸術系教育連合講座3年

高校生が企画するワークショップに協力し アートを通してさまざまな人々の交流を促進

「小学生の笑顔は太陽だった」「小学生が楽しんできた」「小学生と一緒に作業ができた」



昨年の「わくわくアート」には延べ150人が参加しました



ライブペインティングを楽しむ子どもたち

て良かった」。

ワークショップ「わくわくアート」を終えた高校生の感想です。昨年7月30日、31日、たつの市の商店街「龍野ショッピングセンター」を会場に、県立龍野実業高校デザイン科2年生の企画で、市立小宅小学校5年生を招いて開催しました。

ダンボールで家を作るコーナー「おもちゃはうす」、反物に絵を描くコーナー「反物ペインティング」をはじめ、ライブペインティング、ミサンガや革の小物作りなどを通して、高校生と小学生、それを支える兵庫教育大学の学生、院生、地域の人たちが楽しくふれあうことができました。私が所属する初田隆

ゼミでは、平成15年から龍野実業高校デザイン科のアートプロジェクトに協力しています。初年は町家の廃屋を活用し、油絵制作を通して大人と高校生の交流会、翌年は子どもから高齢者までが美術に親しむアートワークショップを開きました。

昨年の「わくわくアート」は、小学生との交流に加え、商店街の活性化に協力するという現実的な課題も担ったプロジェクトでした。高校生にとっては自分たちの考えた企画が実現し、一定の成果が出たことで、達成感と自己肯定感を十分に得られたと思います。また、活動を支える要素として、仲間と協力することの重要性、そして、アートすることの楽しさ、アートを通じた交流の意義を確認できたのではないのでしょうか。

昨年の実践では、高校生と小学生、大学生院生、小・高・大それぞれの教員、そして商店街の人たちが連携し、学年や専門分野、地域の壁を超え、また学ぶ者と教える者との境目もなく、共同的な学びが行われたと思います。今後の生涯学習社会を展望する上でも、さまざまな立場の人々との共同による美術実践をさらに進めていく必要があると考えています。

「わくわくアート」のスタッフ募集!

初田隆ゼミでは今夏も、龍野実業高校の生徒たちとともに「わくわくアート」を開催します。会場設営や当日の会場を楽しく盛り上げてくれるスタッフを募集しています。美術の専門性は問いません。小学生や高校生の体験活動に興味のある人はご連絡ください。

- ① 7月29日(土)、30日(日) (29日は午後、30日は午前のみ。28日に会場設営)
- ② 龍野ショッピングセンター (JR本竜野駅から徒歩5分)
- ③ 初田研究室 (大学芸術棟208号) ☎0795・44・2252

うれしの交差点

歌の伴奏を してみよう

「伴奏者が歌手に何を要求しなければならないのか」「歌手とのけいこに何を準備しなければならないのか」を実践を通して指導します。曲目はビートルズからオペラ、アリアまで幅広く対応します。

⑩7月1日、8日、15日、10月15日、22日、29日 ④14:00～17:00 ⑤大学芸術棟 ⑥一般(歌手+伴奏者のペアで受講) ⑦8,100円 ⑧16人
参加受付:6月26日まで

彫刻をつくる

ABの2コースを設定。両コースとも彫刻の歴史や技法などを学び、モデルを使って粘土で頭像を制作。Bコースではさらに頭像を石膏像にします。

⑩Aコースは7月15日～8月6日の、Bコースは7月15日～8月13日の土曜・日曜 ④13:00～16:00(8月12日と13日は10:00～17:00) ⑤大学芸術棟 ⑥一般(16歳以上) ⑦Aコース:9,300円、Bコース:1万1,700円 ⑧7人(AB合わせて) 参加受付:6月29日まで

理科に強い教員になろう(その1)

—小・中学校教員のための理科実験・実技講座—

小・中学校の理科に関連する物理、化学、生物、地学の各分野からテーマを選び、授業展開に役立つ“カンドコロ”を習得します。物理は「光」、化学は「とけること・もえること」、生物は「デンプンの消化」に関する実験を実施。地学では川原で岩石を観察をします。

⑩8月4日・10:00～15:00、5日・10:00～16:00 ⑤大学自然棟 ⑥小・中学校教員 ⑦6,200円 ⑧10人 参加受付:7月4日～18日



ピアノを弾こう!

初心者から既習者までそれぞれのレベルに合わせて、基本的なテクニックや読譜の方法、音楽表現の楽しさなどを指導します。

期間中に1曲をマスターし、最終日にはミニコンサートを開きます。

⑩9月9日～10月21日の指定の土曜、全5回 ④13:00～16:00 ⑤大学芸術棟 ⑥一般(18歳以上。音大生・音大出身者を除く) ⑦7,500円 ⑧12人 参加受付:8月9日～23日

公開講座の 受講生を募集

兵庫教育大学では、教育研究の成果を広く社会に提供しようと、一般市民や現職教員などを対象に「公開講座」を開いています。教員養成系大学の特色を生かした講座内容で、みなさんの多様な学習意欲にお応えします。

公開講座の問い合わせ
地域交流推進センター
☎0795・44・2409
④開講日 ⑤時間
⑥受講料 ⑦会場所
⑧定員

発達が気になる子どもの 家庭療育の方法

発達が気になる子どもの身辺自立や生活習慣、ことばの発達を促し、また困った行動にどう対応していけばよいのかを、ABA(応用行動分析)によるプログラムを使って、家庭での取り組みを学習し、実践できるようにします。

⑩9月30日～12月9日の指定の土曜、全9回 ④14:00～16:00 ⑤大学院神戸サテライト ⑥子どもの発達が気になる保護者 ⑦8,100円 ⑧25人
参加受付:7月上旬～8月中旬(予定)



絵画制作

絵画制作を通して、表現・創作の楽しさを感じ、知識を高めることを目的とします。油絵制作を基礎的な視点で学びます。テーマは着衣人物・静物を予定。

⑩11月18日、19日、25日、26日 ④12:30～17:30 ⑤大学芸術棟 ⑥一般 ⑦8,500円 ⑧15人 参加受付:10月18日～11月1日

英語を学ぶ面白さ

—英語学習のレポーターを広げよう—
【ひょうご講座(学外科目)として開講】

生涯にわたって英語の勉強を楽しむため、英語学習にどのようなレポーターや考え方があるのかを実演・実践を交えて、さまざまな角度から紹介します。「英語の勉強なんて今さら…」と尻込みされている方も、この機会にぜひ!

⑩9月9日～11月11日の指定の土曜、全9回 ④13:30～15:00 ⑤県立神戸学習プラザ ⑥一般 ⑦1万2,000円 ⑧40人 ⑨ひょうご大学連携事業推進機構 ⑩078・392・0660

音楽が伝えるもの

【ひょうご講座(学外科目)として開講】

西洋音楽の流れを鳥瞰し、「時間芸術」である音楽が時代の変遷の中でどのように捉えられ、表現されてきたかを、人間の感性の系譜をたどりながら論じます。また、他の芸術ジャンルとの関連性も考察します。

⑩9月13日～11月29日の水曜、全12回 ④18:30～20:00 ⑤県立神戸学習プラザ ⑥一般 ⑦1万5,000円 ⑧40人 ⑨ひょうご大学連携事業推進機構 ⑩078・392・0660

あなたの学校や街へ“出前講座”します ～平成18年度スクール・パートナーシップ事業～

県内の小・中・高校をはじめ、自主的な研究グループや学習サークルといった地域の生涯学習の場に大学の教員を派遣する「スクール・パートナーシップ事業」。4年目を迎えた今年度も、「教員の資質向上」「教育の質的向上」「地域内教育の活性化」「児童・生徒等の学習意欲の向上」を4本柱に260の講座テーマを用意しています。派遣には交通費を負担していただきます。どうぞ気軽に利用してください。

派遣依頼の方法

- ①講座テーマを一覧にしたパンフレットを請求(大学ホームページ<http://www.hyogo-u.ac.jp>にも一覧を掲載)
- ②パンフレットで希望の講座テーマが見つければ担当教員に直接連絡を取り、日程・講義内容を相談
- ③教員の承諾を得た後、「派遣依頼書」を大学へ送付

パンフレットの請求と問い合わせ

地域交流推進センター ☎0795・44・2409



◎平成19年度学生募集

☆学校教育研究科(修士課程)

入学定員(300人)を前期選抜試験と後期選抜試験の2回に分けて募集します。

〈前期選抜試験〉

◎学生募集人員(245人)

▶学校教育学専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス 8人 夜間クラス 若干人	
幼年教育コース	昼間クラス 8人 夜間クラス 若干人	
学校心理学コース	昼間クラス 15人	
臨床心理学コース	昼間クラス 25人	
▶特別支援教育学専攻		
心身障害コース	18人	
特別支援教育コーディネーターコース	8人	
▶教科・領域教育学専攻		
言語系コース	昼間クラス 18人 夜間クラス 若干人	
社会系コース	昼間クラス 15人 夜間クラス 若干人	
自然系コース	昼間クラス 13人 夜間クラス 若干人	
芸術系コース	昼間クラス 15人 夜間クラス 若干人	
生活・健康・総合内容系コース	昼間クラス 16人 夜間クラス 若干人	
▶学校指導職専攻 20人		
▶高度教育実践専攻		
授業実践リーダーコース	昼間クラス 25人 夜間クラス 若干人	
心の教育実践コース	昼間クラス 16人 夜間クラス 若干人	
小学校教員養成特別コース	25人	

◎出願期間 7月21日(金)～28日(金)(消印有効)

◎試験日

筆記・口述試験…8月19日(土)

口述試験…8月20日(日)

◎合格者の発表 9月8日(金)10:00

〈後期選抜試験〉

◎学生募集人員(55人)

▶学校教育学専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス 2人 夜間クラス 若干人	

幼年教育コース	昼間クラス 2人 夜間クラス 若干人	
学校心理学コース	昼間クラス 若干人 夜間クラス 5人	
臨床心理学コース	夜間クラス 15人	
▶特別支援教育学専攻		
心身障害コース	2人	
特別支援教育コーディネーターコース	2人	
▶教科・領域教育学専攻		
言語系コース	昼間クラス 2人 夜間クラス 若干人	
社会系コース	昼間クラス 5人 夜間クラス 若干人	
自然系コース	昼間クラス 2人 夜間クラス 若干人	
芸術系コース	昼間クラス 若干人 夜間クラス 若干人	
生活・健康・総合内容系コース	昼間クラス 4人 夜間クラス 若干人	
▶学校指導職専攻 若干人		
▶高度教育実践専攻		
授業実践リーダーコース	昼間クラス 5人 夜間クラス 若干人	
心の教育実践コース	昼間クラス 4人 夜間クラス 若干人	
小学校教員養成特別コース	5人	

◎出願期間 10月6日(金)～13日(金)(消印有効)

◎試験日 11月11日(土)(筆記、口述試験とも)

◎合格者の発表 12月1日(金)10:00

※平成19年4月から学校指導職専攻と高度教育実践専攻の新設を計画しています。

※昼間クラスと夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。昼間クラスは兵庫教育大学で、夜間クラスは主に大学院神戸サテライト(神戸市中央区)で開講します。

※言語系コースには国語分野と英語分野、自然系コースには数学分野と理科分野、芸術系コースには音楽分野と美術分野があります。

☎入試課 ☎0795・44・2067

◎大学院学校教育研究科(修士課程)説明会

大学院(修士課程)の教育課程や専攻・コース改革などの概要について説明します。個別相談の時間も設けます。

◎大学院神戸サテライト開催

<前期>6月17日(土)、7月1日(土)、8日(土)

いずれも13:30～15:00

<後期>9月16日(土)、9月30日(日)

いずれも13:30～15:00

◎キャンパス・イノベーションセンター開催

大阪地区

<前期>6月24日(土)・14:00～15:30

<後期>9月23日(土)・14:00～15:30

東京地区

<前期>6月10日(土)・10:00～16:00

☎入試課 ☎0795・44・2067

☎0795・44・2069

office-nyushi-k@hyogo-u.ac.jp

◎平成18年度オープンキャンパス(学校教育学部)

受験生や保護者、高校の進路指導担当者などを対象に開催します。

◎場所 兵庫教育大学

◎日時 7月23日(土)11:00～16:00(受付10:30～)

☎入試課 ☎0795・44・2067

☎0795・44・2069

office-nyushi-k@hyogo-u.ac.jp

◎日本法政学会第104回総会および研究会

梶田毅一学長の特別講演「中教審の役割と大学運営の方向性について」、他大学の教授や小学校教諭などからの研究報告を交えてシンポジウムを開催。

◎場所 兵庫教育大学

◎日時 6月17日(土)10:00～17:30(特別講演は11:10～12:10)

18日(日)10:00～15:20

☎難波安彦研究室(日本法政学会総会幹事)

☎☎0795・44・2160

◎連合大学院 創立10周年記念式典等

兵庫教育大学、上越教育大学、岡山大学、鳴門教育大学が共催。研究発表会とシンポジウムの一般参加者を募集します。シンポジウムではドイツ、フィンランド、アメリカ、中国からシンポジストを招き、学校教育を取り巻く諸問題に焦点を当てます(予定)。参加の申し込みなどの詳細は7月中旬ごろに大学ホームページに掲載します。

◎場所 グランキューブ大阪(大阪国際会議場)

◎日時 9月23日(土)9:00～17:30

◎内容 共同研究プロジェクト研究発表会、連合大学院創立10周年記念式典、学校教育国際シンポジウムなど

☎連合大学院事務局 ☎0795・44・2068

☎0795・44・2269

☎=問い合わせ先 ☎=申し込み先

編 集 後 記

現在、兵庫教育大学は多様な改革を進めています。今年度は教員組織が大きく変わりました。また、「教職大学院」に先行して、平成19年4月から大学院修士課程に新たな2専攻を設置するための準備も着々と進めています。確実に進化する兵庫教育大学にこれからもご注目ください。

「教育子午線」のバックナンバーはホームページでご覧いただけます。(に)

◎あなたの声をお聞かせください

「教育子午線」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりをめざしています。はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方には、オリジナルステッカーを進呈します。

●あて先:〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

兵庫教育大学企画課広報・社会連携事務局

☎0795・44・2334 ☎0795・44・2009 E-mail:office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

教育子午線
Kyoku-Shigosen

第11号 2006年6月発行

発行/兵庫教育大学 大学広報室

http://www.hyogo-u.ac.jp

編集協力/㈱神戸新聞マーケティングセンター